

令和元年度 第1回みんなで支える森林づくり上伊那地域会議

開催日時 令和元年7月2日(火) 13:30~15:00

開催場所 伊那合同庁舎 302号会議室

出席委員 榎本 浩実委員、唐澤 幸恵委員、木村 彩香委員、高山 美鈴委員、
武田 孝志委員(座長)、田中 章委員、辻井 俊恵委員、寺澤 茂通委員、
三井 清一委員、盛 尚貴委員

事務局 佐藤地域振興局長、越原林務課長、小林林務係長、青木林産係長、三澤普及係長、
倉本治山林道係長、森口治山係長、宮脇鳥獣対策専門員、小沢技師、岡田担当係
長、井原担当係長

会 議

- (1) 平成30年度長野県森林づくり県民税活用事業の実績について
- (2) 令和元年度長野県森林づくり県民税の事業内容について

<事務局説明>

会議事項(1)のうち、資料1により森林づくり県民税活用事業の検証・評価の流れについて説明した。

(質疑なし)

<事務局説明>

会議事項(1)のうち、資料2により平成30年度森林づくり推進支援金事業の実績について説明した。

(武田座長)

昨年度の森林づくり推進支援金事業ということで、市町村を対象に交付されている事業です。私から一つ確認ですが、14ページだけチェックの記入がありませんがどういうことでしょうか。

(三澤普及係長)

単純に記載漏れです。事業を現行どおり継続するという方向性になっています。訂正をお願いしたいと思います。

(武田座長)

はい、それでは委員のみなさんからご発言をお願いしたいと思います。

(武田座長)

それぞれの市町村において、緊急性の高い事業に活用しているという印象を持ちますが、委員のみなさんからいかがですか。ないようでしたら次に進みますが、あとでも結構ですので気付いたところでお願いします。

<事務局説明>

会議事項(1)のうち、資料3-1、3-2、3-3により平成30年度森林づくり県民税活用事業の実績について説明した。

(武田座長)

様々なところで活用されているのがよくわかります。例えば昨年視察した高遠第2・第3保育園や伊那西小学校など、これからの少子高齢化という大きな課題を考えたときに、子どもは大事にしていかなければと思います。

感想でも結構ですので、みなさんいかがでしょうか。

(榎本委員)

12番の里山整備利用地域リーダー育成事業について、どのような人を対象にしているのか、県の林務課のホームページなどで公募して募集しているのか、また、地域リーダーと里山管理人材を育成されるということですがそれぞれの人材に期待する役割というのは何なのか教えていただきたいと思っています。

(三澤普及係長)

当事業については、地域振興局ではなく、本庁が事業を実施しているところです。森林を多面的に活用していくためには、推進していくリーダーが必要になるということで、地域をコーディネートできる人材を育成することが目的です。フィールドの提供は上伊那地域も行っています。

(井原担当係長)

平成30年度のリーダー研修は、南信州地域振興局で2箇所、上伊那地域で1箇所実施しました。これは、里山整備利用地域の認定が南信地域で特に進んでいたことによります。

南信州では竹林の整備が課題になっていることから、そのための講習会が開催されました。信州やまほいくの認定園を対象としたフィールド整備については、上伊那地域、南信州地域それぞれで研修会が開催されました。

(小林林務係長)

榎本さんのご質問の意図として、研修への参加や企画への関わりについてより詳しくお知りになりたいということがあろうかと思っておりますので、本研修の全体像がどうなっているのか、将来的にどのような研修を実施していこうと考えているのかといったことは情報を整理して改めてお伝えしたいと思います。

(寺澤委員)

実績一覧表を見せていただく中で、本当に多くの取組がなされていて素晴らしいことだと思っています。上伊那地域の位置づけもシェアとして確認できて素晴らしいと思います。この会議に出席すればこうした実績がよく確認できていいのですが、どこかで県民にPRできたらいいなと思っていますので、そうしたこともご検討いただければと思います。

(小林林務係長)

ご提案ありがとうございます。本日の資料等は県のウェブページに掲載しているところですが、そうした県のPRに加えて、市町村においても広報誌が発行されていて住民の皆様の目に触れる機会が多いと思いますので、それぞれの市町村における取組について市町村広報誌へ掲載もお願いしていきたいと思います。

(木村委員)

平成30年度、様々な取組がされていますが、地元の広報誌は年代が上の方や町の活動に興味のある方が見ているので、若い年代の方は地元のフリーペーパーをよく見ているので、フリーペーパーに載せてみるということも若い人の目に届く活動ではないかと思いました。

(小林林務係長)

木村委員さんからご提案のあったフリーペーパーについて、教えていただいてもよろしいでしょうか。

こちらから情報提供すれば、掲載についてご相談できるものなのでしょうか。

(木村委員)

そうですね。私が婚活イベントを企画した際は、20代、30代の若い人の目に届くためにフリーペーパーにプレスリリースを行ったところ、取材に来て下さいました。

(盛委員)

昨年度、高遠第2・第3保育園で整備を行っていただいたから約半年経つのですけれども、それから子どもたちがどんどん遊ぶようになって、地域の人たちも小・中学生も散歩などで山に入るようになりました。保育のためにフィールド整備を行ったわけですが、結果的にその地域の里山が整備されたのと同じことになり、地域の方たちがもっと山に入るようになって、今まで気が付かなかったところにも目が向くようになりました。あそこのボサボサをどうにかしたいねといった発展につながっている状況です。保育に留まることがない整備になっていたと思います。

また先日、塩尻市の林業総合センターでやまほいくの講習があり、そこにやまほいくをしている保育士さんたちが20名ほど参加されていて、そこで森林税を使ってやまほいくの整備について報告したのですが、多くの方が森林税の取組を知らないということでしたので、もう少しやまほいくを行っている園にアピールしてもいいのかなと思いました。

(小林林務係長)

第3期の森林税が始まる前に、県民説明会を県内各地で開催しました。そこでは、森に入ってみたいがどこなら入ってもいいのかわからないといった声を多くいただきました。盛委員さんから保育園のフィールド整備が地域の方の目に届くようになったというご報告をいただきました。今回、森林税が様々なメニューで実施できるようになったのですが、単に実施して終わりということではなく、地域の方々の継続的な活用に結びつくよう効果的な事業実施に心掛けたいと思います。

(唐澤委員)

⑨にある、地消地産による木の香る暮らしづくり事業の子どもの居場所ということで、KEESプロジェクトの取組として木製のブロックを登録し、前年度何件かご注文いただき納めさせていただきました。しかし、モノを収めただけで、どのような活用がされているのかも分かりませんし、他にどのような製品が登録されていてどのように活用されているのかといった情報もよくわかりませんので、PR方法にもう少し工夫が必要ではないかと思えます。

(普及係岡田担当係長)

現状から申し上げますと、KEESプロジェクトや伊那市で取り組まれている木のおもちゃなど、県内各地の製品の情報を県庁の該当部署で取りまとめて「木の香る製品事例集」を作成しています。それをホームページに掲載するとともに、市町村へは冊子を提供しています。それらの情報を基に、市町村では事業の検討を行っていますが、取組についてすそ野が広がっているかという点ではまだ不足しているのではないかと私どもも受け止めているところです。

(武田座長)

池に石を投げたときのようにそこからどんどん広がっていけばいいと思いますが。

(普及係岡田担当係長)

そうですね。取組の都度PRをしいていけたらと思います。伊那市の保育園に大型積み木を導入した時も、単にモノを設置するというのではなく、製作に当たった職人さんに保育園に出向いていただき、どのように作ったかなどを子どもたちに伝えるという取組をしています。伊那市からもそうした取組についてプレスリリースを行っています。

(武田座長)

先ほどの保育園のフィールド整備のように、整備して終わりではなく、そこからまた新しい物語が始まるという風にやっていけば、もっと広く伝わっていくのではないかと思います。

そのほか、いかがでしょうか。

(辻井委員)

山を身近にといえども、誰もが入ってよい場所と私有地なため入ってはいけない場所の区別が分からないという件について、何か目印を付けるなどできないのでしょうか。

(小林林務係長)

大切なご指摘かと思えます。せつかく里山整備利用地域という制度が動き出したということもありますので、ここならどうぞ遊んでくださいというように場所として示していけるようになればと思います。里山整備利用地域の取組が広がっていく過程の中で、モデル的な事例を各地に積み上げていけるように、職員からの働きかけも必要だと思います。

(辻井委員)

そうですね。景観を損ねない形で目印を設置してもらえるようなことができればと思います。

(三井委員)

箕輪町では、暮らしを守る森林づくりとして、いわゆる竜東線沿線の整備を実施しました。大雨や台風の度に倒木が発生し、通行止めになることがありました。そうした場所の危険木の伐採については、町の単独費では限界もありますので、平成30年度につきましては森林づくり推進支援金を活用して危険木を撤去することができ、景観の保持にもなりました。森林と住民が共存していく上で必要な伐採ということで、町として活用させていただきました。

(武田座長)

その他いかがでしょう。

(高山委員)

森林税が3期目ということで、最初のことを思うと隔世の感があるというくらいで、始まったころはとにかく間伐、間伐ということで山が荒れているので何とかしなければということが一番の課題であったと思いますが、事業が広がり、いろいろなことができてくるようになって素晴らしいなと思っています。2期目に入って大きく課題となってきたのは松くい虫被害ですが、今もそれは続いているので、こうして事業にも挙がっているのだらうと思います。そこで、今の松くい虫の被害の状況と、それをどの程度までこうした事業で抑えることができてきたのかといったことについて教えていただければと思います。

(青木林産係長)

上伊那管内の松くい虫の状況につきまして、被害が確認されている地域は辰野町以外の7市町村になっています。平成7年に中川村で被害が確認されてから北上を続け、現在では箕輪町と辰野町の境のところまで被害が確認されているところです。7市町村と辰野町、全ての市町村で松くい虫の対策事業は実施されております。伐倒駆除、燻蒸、空中散布等を実施する中で、被害はこのところ横ばいという状況にあります。新たに被害地域を拡大させないように、伊那市、箕輪町で取組を行っているほか、辰野町では町の単独事業で被害が出てきたアカマツの処理を進めています。それから、被害がまだ出ていないものの、被害に近い場所では守るべき松林とそうでない松林に区分して、そうでない松林は樹種転換といって広葉樹等の森林に変えていくという取組を行っています。それはもちろん、森林所有者さんのご了解をいただいた上で事業を進めているところでございます。

(高山委員)

ありがとうございました。以上です。

(唐澤委員)

今の話で思い出したのですが、アカマツは被害に遭う前に活用しようということで皆伐も進められているので、KEESなどもそうですが、括りとすると、間伐材の活用に留まらないと思うところですが、そのあたりはどのように捉えればいいのでしょうか。

(小林林務係長)

今はもう間伐材として細い丸太がたくさん出てくるという状況でもありませんし、間伐材、主伐した材という区分ではなく、木材としていかにいい活用ができるかを考えていくということかと思います。

そのあたり、武田先生、補足があればお願いいたします。

(武田座長)

今はどのような状況になっているかということ、戦後植林した木がどんどん大きくなっていて、木材利用の観点から言うと、大径材をどうやって使っていくかが論点になっています。伐って使って植えて育てるという循環をどのように回していくことができるかというのが一番大きな課題ではないかと思っています。県の林業総合センターでも大きな材をどのように活用していくかという試験研究が始まっているところです。

(武田座長)

よろしいですか。それでは先に進めます。(2)の令和元年度長野県森林づくり県民税の事業内容について事務局から説明をお願いします。

<事務局説明>

会議事項(2)について、資料4により説明した。

(武田座長)

ありがとうございました。今年度の計画ということで、観光地等の景観整備の要望が多い中で事業費が増やされたということで、そうした臨機応変の対応も重要だと思いました。

それではいかがでしょう。委員の皆さんからご意見ををお願いします。

(辻井委員)

県産材の利活用といった時に、今、上伊那近辺の製材所が次々に廃業されてしまっているという状況があり、小口で扱ってくださる製材所が無くて、例えば住宅丸々1棟というように大口であれば対応して下さるのですが、ちょっとした増築などで県産材を気軽に使える状況ではありません。だいたい前になりますが、山をお持ちの方から自分で間伐した材でウッドデッキを作りたいというご相談を受けたときも、そうした製材所が見つからなくて、最後は何とか頼み込んで対応してもらったということもあります。個人の方が小口でも木材を活用したいときに製材所への支援があれば、もっと気軽に木に親しむ、山に親しむということが可能になるのではないかと思います。

(小林林務係長)

ありがとうございます。森林税はちょっと置いておいて、この地域の森林・林業について考えたときにとても重要な課題だなと思っています。上伊那森林組合さんなど大きな事業者さんは伐り出した材木をまとめることができるので、市場等に出荷することができます。そうしたものの多くは県外に出て行って、主に合板に活用されているというのが実態です。今、逆にビジネスチャンスではないかと思っているのですが、上伊那管内は規模は小さいけれども山仕事に取り組んでいる方が大勢いらっしゃるのので、そうした方々はきめ細やかな注文に応じることが可能ではないかと思っていて、地域の中で付加価値を高めて活用していくやり方というのが、この地域なら可能ではないかという思いもありますので、ぜひ今のようなご意見を参考にさせていただきたいと思います。

また、賃挽きで対応していただけるような製材所があるのかどうか、実態としてどうかというところは情報収集の必要があると思っています。

(武田座長)

そうですね。本来、地域の中でつくって消費するということがないと地域にお金が落ちないということになりますし、先ほどの循環ということでもワンウェイになってしまいますね。

(小林林務係長)

製材工場が少なくなっている一方で、森林資源は充実してきているということがありますので、これを活用する方法を地域の中で検討していく必要があると考えています。

(田中委員)

お答えはなくても結構ですので、思っていることを発言させていただきます。

今年、地域の役をお受けしていて、緑の募金も集めたし、区で森林を所有しているので植樹をするなど久しぶりに山に行って活動してきたのですが、森林については、国の補助金、交付金があり、この森林税もあり、緑の募金もあり、SDGsなどに関連して企業の取組もあります。そうした中で、それぞれの使い道について、もっと明確に示してもらえるとありがたいと思います。

また、森林税の活用についてSDGsの位置づけがどうなっているのか、先日、軽井沢でG20がありましたけれども、その中で長野高校の生徒が海洋プラについて川から流れていくものがあるということを勉強して提言されていましたが、そうした流域の考え方で、森から川へそして海に繋がっているという観点から事業を展開できないかと思いました。

それから、経済の観点で、先ほど製材工場の話もありましたけれども、上伊那全体で景観エリアを設定して、県産材を使ったウッドデッキを設置するなどしてアルプスの眺望を楽しめる場所をつくっていくなど、そうしたことができれば楽しいなと感じています。

地域の取組が広がっているというのはよくわかったのですが、私も久しぶりに地区の山作業に行き、やはり携わる人が高齢化していて若い人があまり出てこなかったりする中で、チェーンソーを使うにしてもきちんと教えてもらっているわけではありません。そこで、プロの人に一緒に行ってもらえればいいな、プロを育てる視点が重要だなと思いました。

(武田座長)

今、様々な視点からご意見をいただきましたが、SDGsについては私も気になっていて、県の方ではどのようなスタンスで扱っているのでしょうか。

(小林林務係長)

森林については、直接的には「陸の豊かさを守ろう」という中に位置づけられています。その他エネルギー問題についてなど、森林が絡めそうな分野は多方面に及ぶと考えられます。どのようなSDGsの位置づけでもって自分たちが活動を行っているのかという落とし込みは、これからしっかり対応していく必要があると思っています。

(武田座長)

それから田中委員からお話のあった少子高齢化というのは、間違いなくそういう時代に入っていますので、そういった課題解決に森林を活用することをもう一歩踏み込んで考えてはどうかと思います。そのあたりどうでしょうか。

(小林林務係長)

そのあたり、大変恐縮ですが、榎本委員さんからご意見をお聞かせいただけるとありがたいのですが。

(榎本委員)

私は出身が大阪で、東京にも働いている友人がいます。どこでも聞く話だと思うのですが、人の多い都市部で働くのは疲れたという意見を持っている人がたくさんいます。森はいいねという共通認識は多くの人が持っています。先日知り合った東京で大学に通う二十歳の学生は、大手企業であっても終身雇用が保障されない時代に、わざわざ都会で働く意義がわからない、自然豊かなところで働きたいと。そうしたニーズを同世代から聞く機会が多いので、そういった観点からいっても、森はとてもいいのではないかと思います。

もう一点、やまほいくなど保育園に関しては森の中で子どもたちを自由に育てようということが普及していると思うのですが、そこから小学校に入学した際に今まで自然の中で育ててきたことが、義務教育ということもあるのかもしれませんが、ぷつと途絶えてしまうというお話を聞いています。伊那西小学校のように関われる学校もありますが、それは一握りです。子育て、教育という観点から森を活用していく学校が増えるといいなと思います。

(小林林務係長)

ありがとうございました。

すみませんが、木村委員にもご意見をいただければありがたいのですが。

(木村委員)

今の意見の続きで、観点がずれていたら申し訳ないのですが、木の良いところはリサイクルできることだと思います。私が空き家を借りてリノベーションした時に、一番大変だったのはごみ

の問題で、プラスチックなど捨てにくいものがたくさんありました。環境にもよくないですし。その点木はリサイクルできますし、最終的には燃やすことができていると思います。最近では処分する時のことを考えてからものを購入するようにしています。そういう意味で木は環境にいいですし、最近若い人の中でも、木のコップだったり箸であったり木のぬくもりに触れたいという人が、先ほどの榎本さんの話にもあったとおりで多くなってきたと感じていて、木の良さについてもっとPRできたらいいと思います。

少子高齢化とは観点が異なりますが、「みんなで支える森林づくり推進事業」の広報について、以前の地域会議で森林税の焼き印を押したコースターをいただいて、とてもよかったです。市町村を通じて転入者に配ったり、移住セミナーなどで配ってもらうといったこともPRに繋がるのではないかと思います。

また、観光地の景観整備では、陣馬形山などで事業を行うとのことですが、私も陣馬形でキャンプをするのですが、観光に来た方が、森林税の活用が宣伝されているのを見て、私もお金を払いたいという方がいました。今、SNSが定着してきている中で、そうした観光客の方に、ハッシュタグを、例えば「みんなで支える森林づくり」と入れてPRしてくださいとお願いするようになれば、観光で来た方が森林税で整備してくれたことに感謝の気持ちを表すことができ、県民と観光客が協同でPRしていけるのかなと一つの案として思いました。

(武田座長)

せっかくのご意見ですから、ぜひ汲み取って県でも対応を検討してください。

(小林林務係長)

はい。このところ新しく採用されてきている若い世代の職員もおりますので、彼らに力を発揮してもらおうように考えていきたいと思えます。

<事務局説明>

地消地産による木の暮らしづくり事業について、追加資料により説明した。

(武田座長)

いかがでしょうか。意見がなければ事務局の説明どおり認めたいと思えます。それでは予定の時間になりましたので、これで閉じたいと思えます。